

子ども計画（第 2 期）に基づく取組みにかかる評価検証・課題抽出  
子ども・子育て会議での委員意見と対応の方向性等

分野	委員意見	委員	会議	対応の方向性等
子育て家庭への支援	ひろばなど集団の場でのケアが難しい方への継続的な寄り添い支援のためのアウトリーチ型の支援が不足している。	松田委員	第 2 回	今後取り組むべき課題。 国においても、利用者支援事業のアウトリーチ加算などが新設されており、今後検討が必要。
	在宅で子育てをしている保護者がレスパイト目的で利用できる一時預かり事業が絶対的に不足している。拡充していくべき事業だが、補助も少なく新たな担い手が現れないことも課題ではないか。	松田委員	第 2 回	今後取り組むべき課題。 H28 年度第 3 回子ども・子育て会議での一時預かり事業についての議論も参考にして具体的な拡充手法の検討が必要。
	私立幼稚園における預かり事業については、自園の在園児以外にも、地域の子どもも預かることができる仕組みとなったはずだが、実態を把握したい。	猪熊委員	第 2 回	在園児以外の預かりを実施している私立幼稚園はない。 私立幼稚園等における一時預かり事業の実施状況については以下のとおり。 ・一時預かり幼稚園型（国事業）1 園 ・区独自制度 標準型 8 園 準標準型 1 園 ・園独自事業（私学助成）28 園
保育・幼児教育の充実	2 歳までの低年齢児園が増加しており、連携施設や指数の加点により複数の 3 歳以降の園に振り分けられているが、せっかく子ども同士での関係性が構築されたのに施設の都合で離れ離れになるのは子どもにとって良い環境ではない。	石井委員	第 2 回	低年齢児に特化した保育施設・事業の整備促進にあたり、連携施設のあり方についての検討が必要。
支援が必要な子ども・家庭のサポート	発達に不安のある子どもとその保護者が利用する親子グループについて、実施回数が少ないと感じる。こうした事業につながっていない人の支援はどうなっているのか。	坂上委員	第 2 回	・ぼんぼんキッズ実績 H27 年度 60 回 延 551 組 H28 年度 59 回 延 618 組 ・わくわく親子グループ実績 7 グループ（各 6 回）×定員 10 組 H27 年度 67 組 H28 年度 63 組 ・その他地区担当保健師による継続支援や M C G（母と子の関係を考える会）げんき、子育てステーションにおける相談事業、療育事業など重層的な支援を実施。
	配慮が必要な子どものケアについては大人数の子どもがいる環境は向かない。身近な地域で支援できる環境づくりが必要。	坂上委員	第 2 回	研修、訪問指導等を通じて、日頃利用する身近な地域の施設で安心して過ごせるよう支援を行っている。

分野	委員意見	委員	会議	対応の方向性等
子どもの成長と活動の支援	新BOP学童クラブは利用人数が需要量の見込みを上回っており、実態把握やあり方についての検討をすべき。	池本委員	第2回	H28年度に「子どもの放課後の居場所としての新BOPのあり方にかかる調査研究」において実態把握やあり方の検討を行い、報告書をまとめた。
	民間学童クラブの利用実態を把握する必要がある。	池本委員	第2回	次回の支援事業計画ニーズ調査の項目へ反映させる。 (H25年度の支援事業計画ニーズ調査でも利用実態や利用ニーズは把握している)
	学校生活になじまない子どもの学校以外の放課後の居場所が必要であり、多様化を図るべき。 民間学童クラブのサービスを利用できない家庭への支援も必要ではないか。	普光院委員	第2回	学童クラブだけでなく、放課後の居場所という広い視点で捉え、新BOP、児童館、プレーパーク等大人が関わるゆるやかな見守りができる場を創出し、自主性・創造性を育む場として主体的に子ども自身が選択できる環境づくりを進めてきた。
子どもが育つ環境整備	子育て家庭の毎日の生活での困り事を把握する必要がある。	鈴木委員	第2回	次回の支援事業計画ニーズ調査の項目に反映させることを検討する。
その他評価検証・課題抽出にあたっての意見	新たな課題やニーズの確認にあたっては、子育て支援の現場の声を聞く必要がある。利用者支援事業やひろば事業のスタッフ、乳児期家庭訪問事業の訪問指導員など。	相馬委員	第2回	今後、課題整理や調査にあたりネウボラ妊娠期面接の事例や利用者支援事業での相談内容のヒアリング等の実施や区民版子ども・子育て会議の活用による意見聴取を検討する。